

進路だより6月号

伊万里特別支援学校
2022. 06.03 発行

1 就業・施設体験に行ってきます！

6月6日(月)～17日(金)の期間、高等部2・3年生42名が就業・施設体験を行います。それぞれの目標をもって、働くことや生活の経験をしてきます。県外を含め23の事業所にご協力いただきました。

また、6月21日(火)には保護者の方も参観していただける報告会を実施します！

※「令和4年度福祉サービス事業所情報」参照

| 種別 | 体験先 |
|--------|--|
| 社会福祉施設 | ・入所施設 ・生活介護 あすなろの里 そら、まんてんコア、栢 |
| | ・就労移行支援 ハートフルまんてん、パンちゃん、ohana、jobセンターキリッと |
| | ・就労継続支援A型 ワークサポートみらいず、チョコラ伊万里店 |
| | ・就労継続支援B型 小麦の家、やきものの里、いこい、いまりの里、ワークショップ道の家、街のサナーレ、ゆめランチ、Universal ソラシドジャパン、あんこ屋そらさん |
| 一般企業 | マクドナルド伊万里店、農場 雅、くすきの社、九州海陸運輸 |
| ※宿泊体験 | あすなろの里、グループホーム3社 |

今号のトピック

- ①高等部前期就業・施設体験
- ②校内実習で社会貢献
- ③「就労支援連絡会議」より
- ④「就業・施設体験」は「将来の生活の準備」です



ふぞろいのストロー、
社会実装プロジェクトが
始動します！

麦ストロー作りは社会実装プロジェクトとして全国規模で取り組まれています。「ふぞろいのストロー」でホームページを検索してみてください。



2 校内実習で社会貢献

高等部の知的課程1年生は、前期就業・施設体験の期間に合わせて、地域の企業の製品づくりにかかわる委託作業に取り組みます。納品に企業へも出向きます。(ドキドキ)

- 「献上しますて。」の箱詰めとシール張り(早田株式会社)
- 銅線のテープはがし(九州海陸運輸)
- むぎストローの切り分け(フェルマ木須)

3 「就労支援連絡会議」より

特別支援学校の就労推進事業として、地域企業と関係機関をお招きして意見交換を行う会議を5月24日に本校で行いました。高等部の職業コースの授業も参観いただきました。また早田株式会社の早田様から旧アーケードの空き店舗活用、伊万里ケーブルテレビジョンの川田様から地域企業との協働的な活動の提案をいただきました。



(保護者の方の悩み例より)

「就業・施設体験をするには、「行き」・「帰り」の支援も必要なので困っています。」

- うちの子は留守番できない。 ●送迎車乗車は本人だけでは無理
- 通勤・通所の時間帯は親も仕事があるから、どうしたらいい？
- どこに相談したらいいのかわからない。

4「就業・施設体験」は、将来の 生活の準備

就業・施設体験の取り組みは、複数回行いながら、お子さんの卒業後へつなぐ⇒進路先を決める目的もあります。「慣れるまでに時間がかかる。」「体験先と相互理解を深めるにも、数週間の期間が必要。」など、お子さんの力が十分発揮できる期間を踏まえ、高等部では体験期間を2～3週間設定しています。学校の授業の一環で行う体験のため、通学が保護者の責任で行われているように体験期間中の通所・通勤も保護者の協力のもと、実施します。しかし、上記の”悩み”の例のようなケースも少なくありません。

| 課題の例 | 家を出る時間 | 活動・仕事時間 | 帰宅時間 | ※その他、課題の状況例 |
|------|--------|---------|-------|-------------|
| お子さん | 9:00 | 10:00 | 15:30 | 発作、服薬、安全確保 |
| | 悩み | | 悩み | 悩み |
| 親 | 7:30 | 8:00 | 17:30 | 夜勤、祖父母の介護 |

(心苦しいのですが、学校ではこの部分を支援することができません。)

この課題に福祉サービスを利用して対応できる場合があります (お子さんの状況や世帯によって違いあり)

- ①短期入所 (「ショートステイ」ともいいます) ②グループホーム ③日中一時支援

- ・①、②は「相談支援事業所」※へ相談し、「サービス利用等計画」を作成して福祉課への申請が必要
- ・③は福祉課への申請が必要

※初めて福祉サービスを利用する場合など、福祉サービス全般の相談は、居住地の窓口へ

- ・伊万里市福祉課
- ・有田町子ども支援課
- ・武雄市福祉課
- ・松浦市福祉課

保護者が送迎できる日数だけしか
体験できなくてもよいのですか？

短いことがマイナスばかりではありません😊

お子さんの状況や保護者の方の都合で体験日数が短くなることもありえます。また、福祉サービスを利用するために、手続きなどで多忙になることもあります。

○期間は短くても体験の目標がしっかりクリアできると、お子さんの成功体験につながる。

○家庭の課題を見据えて体験を計画・実施することで、卒業後の準備が進む。

○福祉とつながることで学校外にもサポーターが作れ、相談がしやすくなる。

などのように、プラスにつなげていける面もあります。小学部、中学部の保護者の方も将来の生活に向けた準備のステップを考えてみませんか。